

幸町地区総合整備検討有識者会議 第7回会議 会議録

日時：令和6年9月9日（月）10:00～11:40

会場：呉市役所2階 会議室

出席：田中座長、横山副座長、河崎委員、松野委員、Web：岡委員、戸高委員、福永委員

欠席：櫻井委員、下倉委員、水田委員

1 開会

(1) 事務局からの説明

事務局	6月19日付で小野香澄委員が辞任届けを提出され、受理したことを報告
-----	-----------------------------------

2 議事

(1) 美術館あり方検討委員会の開催報告

横山副座長	資料（1）「第6回呉市立美術館のあり方検討委員会」の説明 質疑・意見等なし
-------	--

(2) 入船山記念館運営審議会の開催報告

戸高委員	資料（2）「入船山記念館運営審議会の開催報告」の説明 質疑・意見等なし
------	--

(3) 幸町地区総合整備事業案

事務局	資料（3）「幸町地区総合整備事業案」の説明
田中座長	本整備事業案に関しまして、本日、欠席の櫻井委員、下倉委員、水田委員よりコメントをいただいておりますので、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>【欠席委員のコメント・櫻井委員】</p> <p>（青山クラブの建物活用案のうち）第3案の外壁保存案については、活用困難なスペースが生じることから、現実的ではないと考えている。このため、第3案は難しいと考えている。</p> <p>第1案の全部保存案について、海上自衛隊OBの意見として、青山クラブの建物を全部残して欲しいという声を伺っている。一方で、現実的な問題として、整備費や、近い将来に、建物を維持管理するために、大規模な改修が必要になると考えられることから、全部保存案は難しいと考えている。</p> <p>幸町地区全体のエリア配置を考えた場合、第2案の施設・機能配置案が整備コンセプトに最も適合すると考える。レイアウトや利便性という点でも優れており、必要となる機能も過不足なく収めることができると考えている。</p> <p>青山クラブの建物の一部保存に当たっては、Rの部分を残して欲しい。</p> <p>外壁の考え方だが、現在の色になってから、長い期間が経過しており、多くの方が、現在の赤い色合いになじみがあると思う。このため、創建当時のスクラッチタイルに戻すのではなく、現在の赤い色のままとするのが良いと考える。予算的に余裕があるのであれば、赤レンガの建物とすることも考えられるが、それが難しければ、現在の赤いモルタルで良いと考える。</p>

事務局	<p>【欠席委員のコメント・下倉委員】</p> <p>桜松館も青山クラブもコンクリートの中性化が進み耐用年数が短いことを考えると、どちらを重点的に残した方がいいかという視点も大切かと思う。それぞれの場所で紡がれた物語を比較すると生活の場として溶け込んだ青山クラブの方により価値があり、そこで起きた記憶を残せないかと考える。</p> <p>そこで以下のことを思いついた。青山クラブの完全なる再生は財政的に厳しいのであれば、青山クラブの敷地が広い記念公園となるのはいかがかと考えた。美術館と繋がるため、屋外アートなどを置き美術公園のようにする。ニューヨーク・クイーンズのアストリアに屋外アートギャラリーとして造られた公園があるがそれがイメージされる。作品は一定期間設置されたら別のアーティストがやってきてそこに作品を作るのでいつ行っても変わった風景が見ることができる。</p> <p>青山クラブの建物は作品を置く土台や囲われた空間になるように部分的に保存していく。この保存の仕方には建築家の創意工夫を導き出すため、設計コンペが必要かと思う。この場合、桜松館は残し、美術館は現敷地に建て替えるでも良いし、桜松館は解体し、美術館の敷地を桜松館の場所まで広く取り、新築の中に設けるホールの名称を「桜松館ホール」などとして、ホール内部の意匠は桜松館を彷彿させるものとし人々の記憶に留めるという方法もあるかと思う。</p> <p>事務局が作成してくださった第1案、第2案、第3案の中でどれか良いかを考えると、第2案が現実的かと思う。第2案の良い点は、桜松館は保存され、まだまだ使える現美術館の建物も壊さなくてすみ、青山クラブの象徴的な外観部分も残ることになることだ。</p> <p>いずれにせよ、青山クラブや桜松館は、戦争の時代を生きた吳の人々の象徴であるため、そこで紡がれた物語に敬意を払い、形として残していくことが大切かと思う。</p> <p>【欠席委員のコメント・水田委員】</p> <p>第1案から第3案のなかから選ぶのであれば、第1案が好ましい。ただし、美術館のボリュームには入船山公園の風致上懸念を感じる。コ字型の建築で中庭を囲んだ空間は重要と考えている。</p>
事務局	<p>田中座長</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、9月6日に呉市議会総務委員会にて行われた行政報告での主な意見の報告を事務局からお願いします。</p> <p>【市議会総務委員会での主な意見の報告】</p> <p>市議会総務委員会での主な意見ですが、大きく5つの事項についてご意見をいただいております。</p> <p>一つ目は、コストを踏まえた整備内容の検討について。将来世代にとって、負担にならないような整備内容とする必要がある。桜松館についても、約25億円と大きな整備費となっている。桜松館の整備について、市民に十分に理解していただけるような活用方法を明示する必要がある。整備事業費だけでなく、維持管理費、ライフサイクルコストも踏まえて、検討を行う必要がある。</p>
事務局	

	<p>二つ目は、青山クラブをはじめとする既存建物の解体案の検討について。保存を前提とした議論が行われているが、建物については、いずれ寿命がくる。青山クラブの建物をいったん解体して、同じようなイメージの建物を新築するという案も検討した方が良いのではないか。</p> <p>三つ目は、若者の意見の聞き取りについて。若者への意見の聞き取りは丁寧に実施して、議論に反映してほしい。</p> <p>四つ目は、中央地区のまちづくり事業との関連について。呉駅周辺地域総合開発、大和ミュージアムの大規模リニューアル、陸上競技場をはじめとする事業とも情報を共有し、中央地区全体の俯瞰的な視点をいれながら、検討を行う必要がある。</p> <p>五つ目は、土砂災害特別警戒区域について。にぎわいの拠点として活用するのであれば、土砂災害特別警戒区域を解消する必要がある。</p> <p>以上でございます。</p>
田中座長	<p>ありがとうございました。これからが本日の議論となりますが、少し分けて議論ができたらと思います。まず、第1案、第2案、第3案、それぞれについて、ご意見やご質問をいただきたいと思います。その後に、3案共通となります。青山クラブの外壁保存の考え方について、スクラッチタイルに戻すのか、今の赤い色の状態で保存するのかという点についてご意見をお願いしたいと思います。その後、桜松館の全部保存案と、幸町地区回遊性機能向上案についてご意見やご議論いただきたいと思います。</p> <p>最後に、それらを踏まえて全体事業案としてご議論いただき、有識者会議としてのエリアデザインの策定に向けて、一つの案に取りまとめていきたいと考えております。</p> <p>それでは、まず、第1案からご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
戸高委員	<p>この会議で一番問題になったのが、建物そのものをどのように残すのか、どのようなイメージを持っているかということだと思います。普通に建て替えるのであれば、何の苦労もなかったと思います。</p> <p>青山クラブの建物が建築的に歴史的に文化財的に貴重なものであれば、できる限り全面保存するということもあると思いますが、青山クラブというものは、呉の市民の皆様にとってのイメージだと考えています。戦後の今の形を残したいという意見が多いというのは、あくまでもイメージであって、建築史的に、文化財的に残したいというよりも、呉の人のイメージとして保存する場所にしていきたいということなので、一定の建て替えは当然あるべきだと考えます。全面保存ということではないと思います。</p> <p>本来、ここで何をしたいのかというと、この場所に新しい建物や空間を創って、呉の文化的なランドマークとして、呉のにぎわいや発展、地域の若者の将来のための場、要するに呉の将来のための場とするということが基本だと考えています。</p> <p>建物を残すか、残さないかというよりも、建物が大事か、呉市の将来が大事かという問題に近いと思いますので、その意味では、第1案は目的とは違うと考えています。</p> <p>第1案でいうと、Rの部分のイメージの保全ができれば良いと考えます。また、建物を保存するのであれば、創建当時の状態を保存するのが筋だと思</p>

	<p>いますが、それは先ほど申し上げましたイメージの問題と併せて考えれば良いと思います。</p> <p>東京駅の大改修の時も揉めました。創建当時の屋根の上のタワーの部分を、空襲のあと、戦後、適当に直していました。戦後50年、60年が経ち、戦後、適当に直した東京駅しか知らない人たちの時代になりましたが、辰野金吾さんが設計した建物ということで、色々と検討した結果、創建当時の形に戻して、とても良い建物になりました。</p> <p>本来の目的と、時代に合わせた考え方を併せて考えて結論を出せばよいと考えます。個人的には、Rの部分を残すのが良いと考えます。Rの形、呉の人たちが見て「懐かしいな」と思うものが残れば良いと考えており、それ以外は新しいものにしていくということで、判断すればよいと考えます。そういう意味で、1案と3案はない。2案で整備して、回遊性の機能向上案で、入船山までの通路があるような、地域全体での発展的なプランにまとめることが良いと考えています。</p>
横山副座長	<p>戸高委員のご発言に関して、イメージということですが、青山クラブが脚光を浴びたのは、こうの史代さんの漫画に載ってからだと思います。</p> <p>面白いのは、こうのさんの漫画は戦時中の設定ですが、青山クラブが現在の色に変わったのは昭和56年のことです。現在、建物そのものではなくて、そのイメージが重要視されているのだと思います。桜松館についても、おそらくその時に色が変わったのではないかと思いますが、桜松館についても、青山クラブと同じ考え方で良いのか、何か情報があれば確認させてください。</p>
事務局	<p>海上自衛隊が青山クラブを赤色にする時に、桜松館も合わせたのではないかと思っています。</p>
横山副座長	<p>結論を申しますと、さきほどの戸高委員の意見と同じです。現実を踏まえた上で、将来どのように使っていくかという観点が一番大事なのではないかと考えています。</p>
河崎委員	<p>現実的には、第2案だと考えています。</p> <p>自分の体験を踏まえた意見として、20年前に、呉駅の前の通りで仕事をしていた時に、外国人の方が通りかかって、青山クラブの前で撮影した写真を見せてもらったことがあります。やはり青山クラブの前の外観は、象徴的な部分なので残していただきたいという思いがあります。</p> <p>それから青山クラブの屋上の部分について。呉が空襲を受けて、青山クラブの屋上から、呉の町の方向を撮影した写真があります。屋上から見える風景というものを残していくことを考えています。</p> <p>台湾に、林百貨店という日系の方がつくられた百貨店がありますが、そこも古い建物を複合施設にしています。屋上にカフェがあって、弾痕が残っています。カフェに行くことで、自然に、平和を感じられる施設となっており、このような施設として残していくことができると考えています。</p> <p>スクラッチタイルについて。林百貨店もスクラッチタイルでしたが、スクラッチタイルの製造方法がショーケースの中で展示されており、どのように作られているのかということを学べたのが良いと考えています。</p>

	<p>希望とすれば、外観はスクラッチタイルです。スクラッチタイルを残す場合、お金がかかりますが、スクラッチタイル1枚1枚を、クラウドファンディングや、ふるさと納税で資金を集める形にしてはどうかと思います。全国に呉ファンは多いので、みんなであの場所をつくるということができたら良いのではないかと思います。クラウドファンディングなどでお金を出していただいた方が、この場所に来るきっかけにもなると思います。</p>
松野委員	<p>基本的にはお三方の意見と同じ考え方ですが、市議会の意見で、建物については、いずれ寿命が来るというのはその通りだと思います。</p> <p>今回どこまでお金をかけて残すのかという話は、そのあたりも関連してくると思いますが、将来世代に負担にならないようにということを考えると、スリム化していくということが絶対的に避けて通れなくなると考えます。</p> <p>一度に、全てを建て替えるというのが、最も負担の少ない方法かもしれません、そうすると、今まで紡いできた思いをすべて壊してしまうことになりかねないので、そうならないように、イメージというものをしっかりと、こういう建物があったということを保存して、それ以外については、新しく造り替えて、未来に繋いでいくという形が良いのではないかと考えます。そういう意味では第2案をベースに考えるのが良いのではないかと考えています。</p>
福永委員	<p>皆さんのご指摘と同意見です。第1案で、全て保存して活用するというのは、青山クラブの大きな建物を、どのように活用していくかということについて、具体的にイメージがない状況で、無理矢理、レストランにしたりということで、かなり無理があるような気がします。</p> <p>建物についても限界があるので、ずっと維持していくことが、果たして呉市にとって良いのかどうか、よく考えてみると、相当無理があると思います。東京などを視察した事例でも、ほぼ、一部分を残して、新しいものを整備していくという方が現実的であったと思います。</p> <p>第3案の外壁のイメージを残すという方法が良いと思っていましたが、今日のプランを見ますと、外壁を残すためには、使えない面積を残したり、外壁のスクラッチタイルの問題もありますので、そこまでこだわる必要はないと思っています。</p> <p>現実的には、第2案が一番、色々な可能性を含めたプランができるのではないかと思います。また、3つの案の中で、早く、この案で行くということを絞らないと同じ話が続いてしまうので、このあたりで方向性を出していくことができればと思います。</p>
岡委員	<p>先ほどの戸高委員の「イメージである」というお話に感銘を受けると同時に共感しております。保存することの本質的な意味を考えていく必要があると考えており、第2案を推しております。</p> <p>第2案に関して、どうしても自分は商業施設・ホテルを運営していますので、この会議に参加する度に、場のグラデーションの話をしてきましたが、第2案は、青山クラブと新美術館を、不特定多数が集まり、賑わいを創出する空間にすると同時に、建築的にも、時代に合った形で、ライトに整備していこうとしていて、その部分にも共感しております。</p>

	<p>また、入船山を上ると、歴史的なことや街としての重力の深みを感じることができます。不特定多数の方が集う、明るい場所から、山の上に上がっていくと、哲学的な深い体験ができる構成になっており、非常に共感しています。</p> <p>青山クラブの保存に関しても、第1案、第2案、第3案で、20億～60億の差が出ています。イメージとして残すべきという点に共感しつつも、ここまで、事業費に差があるのであれば、（第2案にして）差額については、吳のまちの子どもたちの未来のために使うことができれば良いのではないかと思いました。ニューヨークの公園の話も出ていましたが、公園と美術の相性は非常に良いと思います。</p> <p>今回、数10億円かけて保存しても、いつかは土に還していくものだと思います。今まで人類がつくってきた歴史を支えてきた建物であれば、ゆくゆくは、建物そのものも自然に還っていくものと捉えますと、減築をして、ライトに改修し、色々な人が関わって、いつかは建物が土に還していく、そういう公共空間・公園として充実させていく方向での投資であれば、意味があるものになると考えています。</p>
田中座長	第1案についての意見をいただきましたが、第2案についての意見も伺いたいと思います。
横山副座長	美術館あり方検討委員会の議論ですが、例えば、11ページをご覧いただきますと、現在の図面では、美術館は、青山クラブの横で、国道に面しているイメージになっております。美術館あり方検討委員会の議論では、むしろ美術館を桜松館側にずらしています。国道側については、広場なり、公園なりということを考えている状況です。前々から申しております、排気ガス、騒音の問題もあり、建築的に、それなりの対策を考えていかなければならぬと思います。
	また、第2案の場合、中庭をどうするかということも問題として出てきます。あり方検討委員会では、美術館の機能が果たされるのであれば、デザインについては、こだわらない姿勢ですので、建築の設計者との話し合いで、その辺りは変わってくる余地があると思います。この点の考え方をどうするか、美術館あり方検討委員会の委員の皆さんにも、考えをお伺いしたいと考えています。
田中座長	美術館の敷地や中庭も含めて、ある程度は、自由度がある形で、設計に入していくものと考えています。第2案については、先ほども皆様からご意見をいただけたと思います。次に、第3案について、いかがでしょうか。
松野委員	第3案についてですが、一番、中途半端な形になりそうです。外壁だけ残すにしても建物の1スパン、建物の1/3くらいは残して、その跡地に新しいものを整備するとしても、残ったスペースが使えないということであれば、議論をしなくても良いのかなと思います。
田中座長	その他、第3案についていかがでしょうか。
	(特に意見なし)

田中座長	<p>ありがとうございました。これまで、第1案、第2案、第3案について、一通り、ご意見をいただきました。次に、青山クラブの外壁保存の考え方について議論をいただきたいと思います。第1案、第2案、第3案、いずれの場合でも、この問題は考えなくてはなりませんが、これまで、あまり議論をいただきおりませんでしたので、皆様から、ご意見をうかがいたいと思います。</p> <p>先ほど、河崎委員から、スクラッチタイルが良いという意見をいただきました。外壁の考え方について、資料では、20ページになると思いますが、皆様、いかがでしょうか。</p>
松野委員	<p>小学生の時に青山クラブを見た記憶もありますが、赤いイメージが強いです。年齢的なことを考えると、半数以上の方が赤いイメージだと思います。復元するのであれば、創建当時の状態が望ましいと考えますが、創建当時のタイルとは、違うタイルでしか残せないのではないかと思います。今の外壁を削ってスクラッチタイルを使うというのは現実的ではありませんし、創建当時の色にはならないと思います。スクラッチタイルを新たに作るということになりますと、復元ではなく新築に近くなりますので、今ままの形・色で残していく方が、皆さんのイメージにも残りやすいのではないかと思います。赤いモルタルのままで良いと思います。</p>
河崎委員	<p>その案で良いと思います。屋上に創建当時のスクラッチタイルの外壁が残っていますが、それを活用するのも面白いと考えています。</p> <p>外壁の形状についてですが、現在は、つるつとしていますが、昔の写真を見るとデコボコしているので、そのイメージが良いと思います。今の形ではなく、昔の形の方がかっこいいと思っています。</p>
松野委員	モルタルについては、かなり厚めに塗っていると感じています。
河崎委員	改修の経緯についても、分かりやすく伝えていくことができれば良いと思います。
福永委員	<p>青山クラブについては、戸高委員からご指摘があったように、イメージの問題ではないかと思っております。正確に、きちんと創建当時のままを保存したり、現在の状態をそのままで維持する必要は、まるでないと思います。</p> <p>イメージであれば、外壁の形とガラスの感じが残ればよいと思います。そういう意味では、この部分にコストを費やす必要はないと思います。今の建物は、ガラスがアルミサッシになっていますが、その点がむしろ気になっています。イメージを残すのであれば、正確に保存・再現するためにお金を使うよりも、当時こういう形だったというイメージを彷彿できるような形にすれば良いと考えています。</p>
戸高委員	<p>福永委員の話は、誠にその通りだと思います。私は、呉で仕事をしており、若干遠慮があり、控えておりましたが、いまのお話で後押しされた気持ちがします。</p> <p>イメージをきちんと残すことが大事で、今のは、今の形に郷愁があると思いますが、新しい建物にしたとしても、若い人は、新しい建物に郷愁を感じ</p>

	<p>じると思います。この形を、イメージを残して、まったく全部を新しくしても、これと同じイメージのものは造ることができますし、その方が建物としても健全だと考えます。全体的な構造としては、第2案で整理して行くという方向で良いと思いますが、青山クラブのRの部分を残すために無用な努力、時間、お金をかけるのであれば、新しい建物の設計として、Rの部分を残すということも選択肢の一つとしてあり得ると考えます。</p> <p>今の人にとっては、新しい建物が、新しい郷愁の対象になっていきます。それくらい、力を入れた建物を造っていくというのが、今の人間の努力のひとつであると思っています。</p>
田中座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、桜松館については、いかがでしょうか。これまで、桜松館について、有識者会議では、あまり議論されてきたという感じはございませんので、何かございますでしょうか。</p>
事務局	<p>先ほどの横山副座長からの指摘についてですが、桜松館について、昭和55年に大規模な改修を行ったという記録はありますが、外壁をどのタイミングで塗り替えたかという点については、記録がないため、不明です。</p>
福永委員	<p>残すことは悪くないと思っていますが、レイアウトについて、例えば音楽を演奏される方にとって最適なのか、今の時代に合っているかどうか、よく分かりません。そういう意味では、保存ありきではなくて、どう活用するかということを前提に議論をしないと、25億円かけて、今ままの再現するのでは、意味がないと思っています。</p> <p>当然、美術館の講演会や音楽活動に使用されると思いますが、保存という結論が先に来ているような感じがして、それはどうなのかと思います。</p>
田中座長	<p>想定している使い方を考えたときに、現在の建物が適しているのかというご意見だと思います。その他いかがでしょうか。岡委員、ご意見はございますでしょうか。</p>
岡委員	<p>基本的には、美術館と一体的な活用の検討をしていくという方向性の中で、残すのか、残さないのかという議論なのかなと思うのですが、議論の焦点になるところというのは、ここに建物があるのか、ないのかという違いによる魅力度の変化という点なのか、コストの話なのか、どのあたりについて意見をすべきかという点が見えにくくて、コメントしにくいところがあります。</p>
田中座長	<p>この点については、横山副座長からご意見があるということですので、よろしくお願ひします。</p>
横山副座長	<p>現美術館長として、何年も前から、桜松館との一体化ということは提案してまいりましたが、一番の目的は、桜松館の建物そのものではなくて、美術館の機能として、例えば多目的ホールという機能、そこではコンサートもできるし講演会もできる。しかも雰囲気がとても良いので、その機能が残れば良いと考えています。</p>

	<p>それから、建物の中に広いスペースがあるので、収蔵庫を含めた美術館のバックヤードの機能や、常設展示の空間があっても良いのではないかという議論は、何年も前から出ております。</p> <p>建物的に、桜松館が名建築だから保存して、そこを少し美術館として使用するというイメージではないということです。</p>
岡委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>資金的な話で申しますと、全体面積に対して、非常に保存にお金をかけているという印象です。</p> <p>全体の話を聞く中で、自分を含めて、第2案が有力候補となっておりますで、第2案を前提に話をしますと、桜松館がつなぎの役割を担うことが多いと思っています。ただ、今の形だと、開口部が広くないので、中庭と、美術館通り側の縁がより魅力度を増して公園のようになっていくときに、桜松館の存在感が、美術館通り側から中庭側への見た目も風の流れも分断してしまっていることが、もったいないと思っていました。</p> <p>ホールがあることは、施設としては非常にポジティブだと思っていますが、ホールや多目的スペースの機能は、別の場所にもたせることができると考えますと、現在の桜松館の建物で、しかも、現在示されている整備事業費をみると、無理をしなくても良いのではないかというのが、ホテルや商業施設をプランニングする自分としての意見です。</p> <p>「どう自然に還していくか」をキーワードとして考えていました、建物は人工物ではありますが、人工物をどのように自然と調和させるかとか、長期的に自然と一体になっていくか、還していくかという視点に立って考えますと、風が抜けたり、緑が見えたりというオープンな空気感を醸成して、中庭に、もっと入ってきてもらう空気感を作ることができたら良いと考えた時に、桜松館のエリアが国道側の新美術館から現在の美術館への動線をブロックしているものではなく、うまくつながったり、視覚的に外からも中が見えるようになったり、そういうしたものになると全体の空気感が良くなるのではないかと考えていました。</p> <p>結論として、建物の文化財的価値の保全がそこまで論点になっていないのであれば、この金額をかけて整備するよりも、美術館通りから中庭をつなぐ、新美術館から現美術館をうまくつなぐような、ライトな整備をしていくべきではないかと考えています。</p>
松野委員	<p>桜松館については、最初の議論からすると、残っていくものとして話をしていました。大きなお金をかけて、大掛かりに手を入れなくても使える建物であろうという認識でした。多少基礎に不安があったとしても、建物自体のつくりはしっかりとしているので、もうしばらく保つのかなと考えてありました。</p> <p>ただ、そこに建物があることと、機能があることは、違うということで、思ったよりも大きな改修費用がかかるのであれば、そこまでお金をかけるのかという点は、考えなければいけないなと思います。</p> <p>新たに整備する美術館と一緒にして、下倉委員からの意見にもありましたように、桜松館ホールとして名前だけ残すということも、イメージを残すことに繋がっていくのであれば、そういう考え方も検討していく必要があるのではないかと思いました。</p>

河崎委員	私も同意見です。お金がかかりすぎると思います。また、岡委員が指摘されたように、確かにこの場所にあるのは邪魔だと思います。場所が、ここで途切れている感じがあって、今後の回遊性という話になったときに、気づいたら市民広場に行っていたということをイメージをすると、少し邪魔になるというのは感じていました。25億円という整備費を考えると柔軟に考えていかないといけないと思います。
田中座長	桜松館については、建物ありきという話ではなく、もう少し柔軟に検討してはどうかというご意見だったと思います。最後に幸町地区の回遊性機能向上案について、ご意見ご提案等ございましたらお願ひします。
河崎委員	<p>先程も申し上げましたが、町の入口は、青山クラブのRの部分になると思います。そこから、気付いたら、市民広場に出ていたというように、自然と誘導できるようなイメージがよいと思いますが、今は、美術館通りが分断しています。今後、陸上競技場の話もありますし、大和ミュージアムとの連携や、YWCA、清水川の方のエリアとの関連もあります。こちらは、幸町地区が魅力的なエリアになれば、民間は、勝手に動きだす場所になると思います。</p> <p>現実的に、入船山を通り抜けるということは難しいかもしれません、例えば、市民広場から入って、清水川の方に抜けるルート。子どもたちが自然に遊びに行ける場所、公園にして、かつこいい場所にすることで、呉宮原高校をはじめとして周辺の高校の学生さんが、学校に登校するときにモチベーションも上がると思います。ここで育ったという誇りにもなると思います。</p> <p>それと、2年ほど前に、呉音楽隊が故山苑で演奏をしたときに、市民広場でソフトボールをされていた方が演奏を聴きに来ていきました。美術館通りが邪魔をしているのが現状ですが、今後、幸町と市民広場は、一体的に考えていていただきたいと思います。</p> <p>また、呉教育隊の前の道が、大和ミュージアムから青山クラブまでの道になりますが、この部分も魅力がないので、活かしてほしいと思います。</p>
田中座長	中央地区全体のまちづくりを意識した幸町地区の総合計画の検討が必要というご指摘だと思います。その他いかがでしょうか。
横山福座長	<p>図面を見ると平面的に見てしまいますが、美術館通りの入口から国立呉医療センターにかけての坂は、結構勾配があります。</p> <p>それと、入船山記念館の動線についても、入口から長官官舎まで行って、戻ってこなければならないというのが現状です。エレベーター やエスカレーターがあれば良いと考えていました。これまで、美術館と入船山記念館は、別の部署が管轄していたため、一体として考えることはませんでしたが、そういった状況から考えると、非常に画期的な発想だと思います。</p>
松野委員	一体化して活用しようとすると、桜松館の建物は、邪魔をするような形になりそうな感じがします。
田中座長	その他いかがでしょうか。

戸高委員	<p>入船山記念館に一部、歴史資料館としての機能がありますが、極めて不十分な状態になっています。美術館は、建物自体は良い感じにできていると思いますので、現在の美術館の建物を使わせていただけるのであれば、幸町地区に呉の歴史・文化・美術があり、少し離れて、大和ミュージアムに呉の技術があることで、それぞれが一定のレベルで纏まった文化的地域ができあがっていくと思います。</p> <p>先ほど、ご指摘いただいた美術館と入船山記念館の連携についても、これまで、非常に不十分だと思っていました。こういった整備事業については、建物を整備するだけで一息ついてはいけないと思います。建物は、ツールに過ぎないので、そのあとで、どのように使うかという点が重要となるので、できあがったものを、より効果的に使うにはどのようにしたら良いかということを、これからも考えていく必要があると思います。</p>
福永委員	<p>有機的に色々なものが繋がっていくのは良いことだと思いますし、今の美術館の建物を残すのであれば、どのように活用していくかというのは、すごく大事な問題だと思います。桜松館の保存にも関わりますが、プランニングをするのに、最終的には専門家の方に魅力的なレイアウトや回遊するプランをしてもらう必要があると思いますので、概ねこういう方向で整備する。桜松館をどうするのかという基本的なところだけを抑えていくというのが良いのではないかと思います。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。有識者会議は、かなり大枠な部分を決める会議かなと思っています。</p> <p>一通り、個別に伺うべき点については意見をいただいたと思っています。エリアデザインの策定に向けて、一つの案に絞っていきたいと思いますが、本日、ご出席の委員の皆様のご議論を踏まえますと、第2案かなと思いますが、いかがでしょうか。特に、ご異論はございませんでしょうか。</p>
横山副座長	<p>これまでの第1案と第2案の考え方として、第1案の場合は、美術館は3階建て、第2案の場合は、2階建てが前提となっておりますが、それも最終的には分からぬということを、あえて申し上げたいと思います。建築のデザインよっては、3階建てもあり得る考えています。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>委員の皆様のご意見を踏まえますと、現段階では、第2案を基本としてエリアデザインをまとめていくという方向でよろしいかと思います。</p> <p>ただ一方で、水田委員のご意見、第1案を推すという意見も出ている状況でございます。このため、有識者会議としては、第2案を基本としてとりまとめていきますが、第1案の意見もあったということは、引き継いでいく形になると考えております。基本的には第2案、ただ、第1案の可能性についても探りに行くという方向で、エリアデザインの策定に向けた作業を実施して、次回会議で提示していただきたいと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>

田中座長	<p>ありがとうございます。それでは、このような方針で進めていきたいと思いますので、よろしくお願ひ致します。</p> <p>また、外壁について、本日の議論では、イメージを残していくのが 共通の意見だったと思います。</p> <p>そういう観点から申しますと、現在の赤い色合いを残していくという考え方なのかなと感じております。一方で、河崎委員からもご発言がありましたが、来られた方に歴史を伝えていくということもあると感じました。</p> <p>桜松館については、これまで、保存を前提として話が進んでまいりましたが、本日の会議では、委員の皆様から、あまり無理をしなくてもいいのではないかというご意見をいただきました。この点については、少し柔軟に考えてもいいのかなと思います。</p> <p>回遊性機能向上案については、周囲の町との接続を考えた回遊性の計画を検討いただけだと良いと思います。その際、近くを通る方々にとって、愛着であったり、思い出に残るような体験ができる場所になればと思います。また、美術館と入船山記念館について、一体的な使い方を含めた回遊性の向上案を検討いただければ良いのではないかと感じました。</p> <p>この辺りが、本日、いただいたご意見だったかと思います。</p> <p>本日の議論を踏まえまして、エリアデザインの策定作業を進めていただい、次回の有識者会議でお示しいただければと思います。</p> <p>以上で本日の議題は終了です。</p>
------	--